

一般社団法人 大学コンソーシアム熊本
令和3年度第3回教育のあり方に関する協議会議事要録

- 1 日 時 令和4年1月26日(水) 10時00分から10時45分
- 2 場 所 オンライン (Zoomによる) 及び熊本大学社会連携課
- 3 講 師 重岡忠希 (熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 課長)
出席者 瀬崎正治 (九看大)、西村明博 (学園大)、三浦幸輔 (県技大)、堤裕昭 (県立大)、千葉直樹 (熊本高専)、甲斐広文 (熊本大、企画・運営委員長)、河瀬晴夫 (熊本大)、岡原安利 (尚綱大)、橋本成人 (東海大)、浦上仁史 (平成音大)、高橋知里 (熊本県)、宮崎正義 (熊本市)、阪本達也 (学生教育部会長)、大谷順 (国際交流部会長)、坂本昌弥 (地域創造部会長)、宇佐川毅 (教員免許状更新講習・教員養成等事業部会長)、重岡忠希 (熊本県教委)、松村加奈子 (熊本県教委)、井上朋美 (熊本県教委)、芥川奈緒美 (天草市役所)、松本充右 (九州ルーテル大)、實松史幸 (尚綱大)、水谷智彦 (尚綱大)
陪席者 清永政治 (熊本大)、大谷眞理 (熊本大)、吉田貴 (尚綱大)、久米田将典 (熊本県)
事務局 松村健史 (事務局長)、野口正明 (次長)

4 講演

- (1) 議長 (企画・運営委員長) より講演の前に以下の発言があった。
本日は、最初に、熊本県教育庁高校教育課の重岡課長から講演いただき、その後、意見交換を行う予定である。質問については、講演のあとに時間を設けたい。
- (2) 講演「熊本スーパーハイスクール (KSH) 構想について」
熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 課長 重岡忠希氏から講演があった。
この後、以下の質疑応答があった。
(議長) 大学コンソーシアム熊本の存在意義というものを、考えなければならないということを多くの方々も感じたと思うが、皆さんのご意見・ご質問をお願いしたい。
(質問: 県技大/三浦) TSMCのことが講演の中でもあったが、高校生には例えば半導体等の専門的な分野は高校生には分かりにくく、そのため興味をもたれないという面があるが、そのような専門的な分野に対して高校生に関心や興味をもってもらうためにどのような見せ方、教え方をしたらよいか。
(回答: 重岡) 工業系高校の授業の中に課題研究、工業技術基礎という専門技術科目があるので、それに技術短期大学校等から授業の支援に来ていただければと思っている。また、高校生の課題研究のグループに、技術短期大学校や大学等の半導体関連の実習・演習を、直接見学させていただく等、双方向でいろんなことが実施できればと考えている。
(意見: 県技大/三浦) 技術短期大学校等が直接、アクションを起こさないといけない面も多々あると思うのでその際はよろしく願いたい。先日、NHKの取材があり、その際の質問を受けて、現実の社会で半導体がどのように使われているか子供達に分かりやすく発信することを考えていかなければならないと感じた。高校の授業にも是非、そういったものを取り入れていただき、そういう試みがあれば私たちも是非参加したいと思う。
(質問: 議長) 高大連携のような科目を各高校に設置して、その中で大学等の教員が講師として参加で

きるような仕組みはあるか？また、大学等が個々に高校に直接アクセスするのは合理的でないの
で、県教育委員会のどこかに窓口が必要なのでは。

(回答：重岡) 科目設置となると難しいので、県教育委員会に言っていただくと、我々から、工業校長
会、普通科校長会をとおして関係校の校長に伝えて、こういう要請があつているということで希
望する学校と日程調整を行い、そこに入っていただくという事は可能だと思う。また、それを定
期的に実施するのか単発で実施するのかは、まずは、そういう場面を設定した後、各学校と個別
に調整をしてもらうという形になるかなと思う。

(質問：ルーテル大/松本) 先程、説明の中でT SMCのことがあつたが、T SMCが進出するに伴い、
海外からの子女、お子さんたちが熊本県内に来ると思うが、それに伴い、県内の高校にインター
ナショナルクラス、英語で授業を行うクラス、あるいは国際バカロレアを目指してD Pクラスを
設置するといった計画の検討や構想はあるか。

(回答：重岡) T SMCの技術者の方の子どもへの対応については今現在検討中である。ただ、国際
バカロレア認定校に向けては、令和6年4月に県立八代中学校に国際バカロレアのプログラムを
導入するというので県教育委員会では決定しており、令和6年4月には県立八代中学校にそう
いった一年生が入学し、その後、その子ども達は、併設型中高一貫教育なので、令和9年には
八代高校に進学していく。一貫したプログラムの内容については、今、研究を進めているところ
である。

(質問：高専/千葉) 熊本スーパーハイスクール構想について、県独自としていろいろな施策を行うとい
う事をお聞きしたが、その中で、大学や高専の研究室のアドバイスを求めるという話があつたが、
これについてその具体的なものとして会議とかアクションとかあるのか。これについて具体的
には、例えば高専として窓口を用意する必要があるとか、そういうものがあればお聞きしたい。

(回答：重岡) 熊本高専ではすでに黒石原支援学校と連携して様々な研究開発を進めていただけており、
本当にありがたいと思っている。窓口としては、是非、担当の先生を大学、高専、県技大と高校
の連携係といった形で位置づけていただければ大変ありがたいし、その窓口の先生がおられると
県教育委員会からも高校側に、大学、高専、県技大の研究室でも課題研究等での指導助言が可能
ということが言える。また、先程、議長からもありましたように、県立学校の場合は窓口は一旦
高校教育課がとるが、研究内容や連携先は各高校の実情に応じて、高校が直接、大学、高専、県
技大に相談をさせていただく形になろうかと思うので、窓口の先生がおられると随分違うと思う。

(意見：高専/千葉) 高専からは、個別の教員との関わりで、先程の黒石原支援学校と高専で行う介護支
援等の研究で特定の先生が関わっているケースがある。そういった意味で高専のプロジェクトの
話の中でも関連があるが、他の高校でも、そのような形で何らかの支援や何かしらのアドバイ
スが必要であるようなら、県教育委員会から、各高校の関係者へ聞いていただいて、例えば高専に
求める支援とか具体的な内容について、何らかの会議時や文書等でアナウンスしていただければ
大変助かる。その際には高専の窓口や担当者は決めておきたいと思う。

(回答：重岡) 承知した。

(意見：議長) 個別の大学云々ではなく、ルール化していただければ助かる。大学コンソーシアムを通
してでもいいが、プロトコルみたいなものを作っておくと動きやすいかなと思う。

(意見：重岡) 甲斐先生の提案に関連するが、県教育委員会としては、大学、高専、県技大等の研究室
で、どういう研究がなされているか、なかなか個別のホームページ等で探さないと詳細が分から
ないので、もしよければ大学コンソーシアムの方で、各大学の主な研究室での先生の取り組みが

一覧になったものが見れるようにしていただくと、それをベースに高校生の課題研究や探究的な学びの取っ掛かりにできると思う。県教育委員会としても各高校のどのような特徴的な探究的な学びを進めていくのか、どのような分野で実施しようとしているものを県教育委員会で取り纏めて、どこの大学、高専、県技大の研究室の研究が近いか、助言をもらえそうだとか、マッチングができるようだとか、そういった仕組みを考えていきたいと思っている。

(意見：議長) 大学側からの情報発信という意味で、県教育委員会を通しての情報発信及び情報共有ができれば今のような話に繋がってくると思う。

(質問：議長) 今回の熊本スーパーハイスクール構想で、ある種類の高校をグルーピングしていったら、この先に何があるのか、次のステップとして何があるか考えていたが、今、少子化といった中で、高校とかも定員割れがある中で、一方でコロナ禍の影響で遠隔授業ができるようになったことで地域を超えた高校教育も可能になってきている。そういう面で、機能別に高校をグルーピングしたことにより、そういったところまで考えておられるかどうか参考に伺いたい。

(回答：重岡) 構想のグルーピングについて将来的にはどうかということで、いわゆる学びの特色化を明確にし、連携校どうして学び進化させたい。そしてそれだけ先の尖った人材を育成していきたいというのが一点である。最終的にはグルーピングの中で学校をさらに再編するということは、現在では将来的にもまったく考えていない。しっかり学びを特色化し、相互の学びを連携化していく、このあとはグルーピングを超えたオンライン等での連携といったものも考えているので、そういう意味で各県立高校に人材育成の目指すべき方向性を県教育委員会として示したいというのが一番の狙いである。

(意見：議長) 国立大学も大きな傘の下に三つ四つの大学を一つにしようという動きがあり、例えば名古屋大学と岐阜大を連携機構とするような動きがあって、ある種、先程の県立高校のグルーピングは機構的な形で、それぞれの傘の下に、おそらく、例えば工業系等の専門の先生も地域や校区を超えて指導することが対応可能になると意味はあるのかなと思う。

(回答：重岡) それについてはこの運営のなかで実施していこうと思っている。

(意見：議長) そうであれば、その中に枠のひとつとして高大連携の指導の仕組みが入ってくると高校生も学びの楽しみがついてくるのではと思う。

(意見：議長) 纏めとして、こういうコミュニケーションの場は増やしていくべきと思うし、県教育委員会で構想を考えられる途中でも意見を出し合う場があればいいと思う。大学コンソーシアム熊本の意義も大学間を超えて熊本に何ができるかを議論すべき場でもあるので、例えば高大連携という課題もあるのでよろしく願いしたい。

5 協議

(1) 2040年に向けた高等教育のグランドデザインについて

議長より以下の発言があった。

- 1) 大学コンソーシアム熊本で議論すべき重要な課題として「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」がある。コンソーシアムの中でこのグランドデザインについてきちんと議論していきたい。
- 2) 本日の議論の内容につきましては、今後コンソのホームページで公表することになるので、ご了承願いたい。
- 3) 資料2-2の右下にあるように、将来の18歳人口、大学進学者数がともに大幅に減少することを踏まえたうえで、本協議会ではコンソ加盟各大学の課題を共有しながら「Ⅱ 教育研究

体制」をどう確保していくか、各大学のすぐれた対策等をその他の各大学の教育研究体制の維持・拡充に務めていければと考えている。

- 4) 補足として「Ⅱ 教育研究体制…多様性と柔軟性の確保…」にある「多様な学生」、「多様な教員」、「多様で柔軟な教育プログラム」、「多様性を受け止める柔軟なガバナンス等」、「大学の『多様な』強みの強化」について特に説明したい。(詳細説明あり)
- 5) 熊本県内に様々な特色ある大学が存在しており、それぞれの強みがうまく分散していると思うし、それらを遠隔授業等で介しながら、あるいは学生間のボランティア活動等でお互いに学びを共有する場を作ってあげる事、そういうことがコンソーシアムの中でできればと思う。
- 6) 多様な教員を受け入れるという体制が各大学にどこまでできているか、例えば教授会の資料は殆ど日本語になっているので外国人の教員を受け入れても、教授会がうまく機能できるかという問題もあり、超えないといけない課題が多々ある。

引き続き、議長より委員に意見や提案や求めたが特になく、何か意見等があればコンソ事務局にメール等で意見を送るようにとの発言により本協議は終了した。

議長から、本日の「令和3年度第3回教育のあり方に関する協議会」は以上で終了するが、来年度も引き続き「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に関する協議を実施していくので、引き続きよろしくお願ひしたいとの発言で協議会を終了した。

以上